

本時のねらい

本文を読み、わからない言葉の意味を調べて理解する。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

学級には、えんぴつを持つことが難しく、書字に困難さがある児童がいる。そこで、タブレットをノート代わりにすることで授業の内容を自分で記録することをねらいにしている。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット PC ・Word ソフト ・インターネット

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・類義語と対義語の意味の説明 ○タブレット PC 端末を使って対義語を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・読み方 ・意味調べ 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリック入力を活用することで、作業時間を短くし、思考する時間を確保しやすくする。
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「新聞記事を読み比べよう」の本文の音読をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・発音を確認しながら音読する。 ○本文に出てくる語句の意味を、タブレット端末を使って調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・読み方 ・意味調べ ・例文の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめいくつかの語句を Word に入力しておき、時間を区切ることで、児童の進度に合わせて学習を進めることができる。また、保存しておくことで、すぐに確認したり、続きをたしたりできる。 ・インターネットによる検索を行い、オンライン辞書を活用して意味を調べている。 ・出てきた語句を確認した後、コピー＆ペーストして語句の意味を Word に貼り付ける。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○次時の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートとして保存し、次時ではその続きから行う。タブレットがあることで、学習の内容を教員ではなく、自分の力で記録していくことができるようになった。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1 : 斜面台を使い、タブレットでの入力しやすい工夫をしている場面



写真 2 : フリック入力を利用して指一本で簡単に入力している場面。



写真 3 : インターネットで意味を調べ、必要な箇所をコピー＆ペーストしている場面

児童生徒の反応や変容

- ・素早く文字入力ができるようになったので、ノートの代わりとして活用できた。
- ・辞書引きも、これまでは教員が調べたページを見るだけだったが、自分で調べることができたので、意欲的に語句の意味を探すようになった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・はじめはキーボードによるローマ字入力を使っていたが、入力に時間がかかっていた。児童に合った入力方法を利用することで、文字入力のハードルを下げることができたので、入力しようとする意欲が高まった。タブレット端末の活用によって学習に対して取り組む姿勢が変わった。
- ・今後、他教科でもタブレット端末を活用して、自分で記録していけるように使っていきたい。